

おかもと ひろし
岡本 博

自治労・書記長

「体感温度」

昨年の今頃は、閉塞感が漂ってなんとなく暗い感じがあったような覚えがあります。今年は少しは明るくなっていくのでしょうか。

9月に政権が代わったからといって、経済上はそんなにすぐに効果が表れるものでもないし、今の状況からすれば去年より暗いといっても言い過ぎではないのかもしれませんが。（政治上ははっきりと変化が表れてきているように感じますが・・・）

縁あって、2年前から東京銀座の片隅に単身赴任で暮らしています。銀座というのはほんとにコントラストのきついところで、華やかなネオンや、きらびやかなブランド店が並んでいるという一方で、ホームレスの人が昭和通のガード下で寝ていたりします。若い人がブランド品を眺めている横を、おおきなバッグを引きずって垢黒くなった年配のおじさんがとぼとぼと目もうつろに歩いていく。そんな情景を度々見かけたりします。

東京は一人勝ちやなぁと思うことが多々あります。東京はどこへ行ってもまだ商店街が商店街として残っているし、苦労はあるんだろうけどそれなりに繁盛している気がします。地方へ行くと、本当にシャッター街の言葉通りのところが目につきます。自分の出身地である三重県の亀山もご多聞にもれません。唯

一地元大市の時ぐらいかなあ人出を感じるときがあるのは。東京の人の多いこと多いこと、銀座は一段とです。でも地元の人に言わせれば、以前はもっと、今はこれでも寂れてきているとのことらしいですが。

格差社会をちょっと横目で見ている感じになっているサラリーマンの気分です。そやけど、こんな社会良いわけはないはなあとひしひしと思っています。

最近、今まで以上に公務員に対する風当たりがきついなあと感じます。新聞紙上でもテレビのニュースでも公務員に対する批判が語られない日は無いように思います。

市民の皆さんの税金で給料をもらってるんだし、社会の公・市民の皆さんの生活の安心を担っている責任から言えば、どれだけ言われても言われすぎはないのかもしれませんが・・・。

確かに一定の生活はしているとは思いますが、そんなに派手な生活をしているわけでもありませんし、十分に慎まやかな生活を大多数のものはしていると思っています。公務員一人の給料ではなかなか結婚しづらいものがあるのも事実だと感じています。

職場では少なくない人数の人が精神を病んでいたりします。統計上は定かなものはありませんが、公務員は早死にすると聞いたこと



があります。すくなくとも私の周りではやっぱりそうかなあと感じることが起こっているような気がします。

公務員の中にも非常勤の人が多くいます。その方たちの給料はワーキングプアの言葉に値するものを超えていません。(労働組合としての取り組みの不十分さを反省しています)

地方連合の事務局に5年間勤務しましたが、そのときに「公務員さん(自分も含めてですが・・・)は少し人の意見を聴く力が足らんのかもしれへんなあ」と感じたことがありました。自分の意見・見解が正しいと思い込み勝ちのような気がしました。周りを見る力が少し不足しているような・・・。それと、経済状況になんとなく疎いです。自分の力で、給料を稼ぎだしているという感じに乏しいからだと思います。以前、連合評価委員会が述べていたように、自分の家の外は冷たい風が吹いていることを知らずに暖かい家のコタツのなかでぬくぬくしている状態なのかもしれません・・・。

でも、やっぱり一生懸命働いている真面目な者が大多数だと主張したいと。地域の活動に参加しているものは当然のことながらいっぱいいます。NPO活動に参加しているものもたくさんいます。公務員になろうという動機の大きなひとつは「人のために仕事で

きるから」です。(なかなか大上段には言いにくくて、生活の安定のためとか言うことが・・・)新年にあたって、少しでもいい公共サービスが提供できるよう努力しなければとも思っています。

「今年はそんなに風当たりを強くしないで欲しいなあ」「もう少し主張しようかなあ」「あっ、やっぱり位置が分かってないのかなあ」と思っている今です。

政権交代がありました。先行き不透明なところも多々あるでしょうが、少なくとも地方分権は進んでいくと思いますし、非現業公務員の労働基本権問題も消防職員の団結権問題も前進させなくてはと思っています。労働組合の役員になって長いですが・・・後に先のもこんなに良い政治条件のことはありませんでした。そう思うと、幸せな時期に本部の役員をやらせてもらっていると・・・。(それだけ、辛いとも言えるんですが)

寅年です。必ず言う阪神タイガースファンの年頭一言をもって今年への思いとしたいと思います。「今年こそは優勝やあ」。

(明るい暖かさが感じられる一年になってほしいなあ。ほんとに・・・)